

2018 年度博士課程（前期課程）入試について

2017 年 12 月 1 日

国際開発専攻（DID）と国際協力専攻（DICOS）は、2018 年 4 月から国際開発協力専攻に統合されます。2 月入試で合格となった人は、新しい専攻に所属します。来年度から DID または DICOS に所属することはできません。それにともない、2 月に行われる入試は DID と DICOS 一緒に執り行われます。入試制度が今までとは異なっているところがありますので、十分注意してください。学生募集要項に変更はありません。

http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/exam/application/guidebook/MC_DICOS_2018-Feb.pdf

[f](#)

1. 2 月入試

DID は、外国人特別選抜入試を除き、2 月入試を行っていませんでした。しかし、二つの専攻が統合される結果、現 DID 専攻の教員の指導を希望する方も、2 月入試を受験することができます。

2. 外国語試験

(1) DICOS で実施していた（外国人向け）日本語要約問題は廃止されます。

(2)受験者は、第1問から1題、第2問から1題を選択して解答しなければなりません。第1問は、英文和訳問題が1題、英文要約問題が1題出題されます。第2問は、経済、教育、法、政治及び社会開発分野から5題出題されます。

3. 外国語試験免除

TOEFLのような英語能力試験のスコアで外国語試験が免除されますが、その最低基準は学生募集要項に記されているとおりで変更ありません。募集要項4ページ^{*2}を参照ください。英語能力試験のスコアは、100点満点に換算され、外国語試験受験者と同様に評価されます。

4. 論述試験

論述試験は、経済、教育、法、政治及び社会開発分野から出題されます。受験者は、1問を選択し解答することが求められます。解答は英語または日本語で行ってください。

5. 卒業論文入試

論述試験に替えて、卒業論文またはそれに替わるものを提出することができます。募集要項2ページ(13)を参照ください。

6. 面接試験

出願書類として提出される研究計画書及び面接が重視されています。面接は日本語または英語で行われます。日本語希望の受験者にも英語で若干の質問がされます。

名古屋大学大学院国際開発研究科